

令和8年度 墨田区立押上小学校経営方針

墨田区立押上小学校
校長 影山 祥仁

1 東京都教育委員会 教育目標

東京都教育委員会は、子供たちが、知性、感性、道徳心や体力をはぐくみ、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

の育成に向けた教育を重視する。

また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じ、あらゆる場で学び、支え合うことができる社会の実現を図る。そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行わなければならないものであるとの認識に立って、すべての都民が教育に参加することを目指していく。

2 墨田区教育委員会 教育目標

墨田区教育委員会では、「知」、「徳」、「体」のバランスの取れた児童を育成するために、

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と確かな学力の定着
- いじめ・不登校をはじめとしたさまざまな課題への対策強化
- 自己有用感及び自己肯定感の醸成、非認知能力を育む取組の推進

を重要な課題と捉え、各学校の取組を推進する。

また、学校・園、家庭、地域がそれぞれに役割を担い、豊かな環境の中で、子供たちが生涯にわたって主体的に文化やスポーツに親しむことができる人間として成長するように関係諸機関等との一層の連携を図る。

そして、「挑戦する力」「つながる力」「役立つ力」を墨田区教育委員会の教育目標とする。

3 押上小学校 教育目標

東京都教育委員会の教育目標、墨田区教育委員会の教育目標を受け、本校では、人権教育の精神を基調として、公民的資質と国際的視野をもち、社会の進展に貢献できる知力・体力・行動力及び感性をそなえた人間性豊かな児童の育成を目指して、次の目標を設定する。

- 「挑戦する子」（自己実現できる子）
 - ・ 広い視野をもち、自ら学び、考え、挑戦する力をもって行動できる子の育成
- 「つながる子」
 - ・ 人と人とのつながりを大切にし、互いに相手のよさを認め、支え合う子の育成
- 「働く子」
 - ・ ルールを守り、仲間や地域に役立つために知恵や力を発揮する子の育成

4 経営目標

(1) すべての教育活動は子供たちのために行う

学校の主役は子供たちなので、子どもたちの自己実現を支援し、成長を促すことを目指し、保護者や地域とともに協働していく。

常に、子どもの目の高さで物事を見つめ 理解・活動する等、子どもも教職員も共に伸びる教育実践を目指す。

- (2) 「知」「徳」「体」バランスのとれた質の高い教育を行う
「学校力」(学校の教育力)、「教師力」(教師の力量)を強化して、子どもの「人間力(生きる力)」を育むための、質の高い教育に取り組む。
- (3) 確かな学力を育む学習指導を実践する
子供たち一人一人のよさや可能性を見だし、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「深い学び」を通して、「確かな学力の定着」を図り、達成感を味わわせる。
- (4) 信頼されるプロ教師としての自覚をもつ
教職員は、常に指導力を磨き・高め、「範」を示してほしい。子供たちの生きる力を育むために、一つの目標に向かって、助け合い、認め合い、高め合う「信頼されるプロの教師集団」を目指す。
- (5) 安全・安心で、居心地のよい学校づくり
学校は、安全で安心できる場所であってはならない。子供も教職員も「学校に居場所」があり、日々穏やかに過ごし、充実感・有用感のある学校を目指す。

5 学校経営の基本理念

これまでの教育活動のよさや成果を継承するとともに、墨田区教育委員会の教育目標や基本方針を踏まえ、時代や社会の変化に対応できる新しい学校教育の創造に努める。

また、学習指導要領の理念を踏まえ、墨田区教育委員会の捉えた教育課題に対応しながら、「知」・「徳」・「体」の調和のとれた豊かな人間性を育み、将来どのような環境に置かれても、周りの人と協働しながら目の前の課題に立ち向かい、よりよい生き方を選択できる「生きる力」を育むことができる組織的で協働的な教育活動が展開される学校経営を目指す。

【目指す学校像】～笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる学校～

教育目標達成のため、全教職員が家庭や地域との連携を図りながら、校外の教育力を効果的に活用し、質の高い教育活動を意図的・計画的・組織的に実施できる学校を目指す。

- ・児童にとって、安心・安全が確保され、しっかり学び、元気に遊ぶことのできる学校
- ・児童のために日々自己研鑽に邁進する教職員集団の学校
- ・チーム押上として、学校と保護者・地域が一体となって教育活動を行う学校

【目指す児童像】～自分からすすんであいさつができ、思いやりのある子供～

自らの生き方を考え、自らの力で将来を切り開くために必要な学力、自他を大切にする優しさを養う。

- ・自分の思いや考えをしっかりとち、しっかり表現できる子供
- ・気持ちの良い挨拶を自然に行い、他者を思いやる行動ができ、共生・共助に努める子供

【目指す教職員像】

保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもち、教育目標の実現と教育課程の計画的実践に全力で取り組む。また、児童のよさや可能性を最大限に引き出し、伸長し、個々の将来につなげていくために、組織的に取り組める教職員集団を目指す。そのために、児童や保護者、地域の方々とのコミュニケーションを大切にする。

- ・家庭や地域と連携し、子供一人一人のよさを認め、支え、伸ばすことのできる教職員
- ・指導力向上を目指して互いに学び合い組織で動くことができる教職員
- ・高い人権意識をもち、豊かな人間性を育てていく教職員

6 学校経営の基本方針

(1) 生涯学習の基盤となる確かな学力を身に付ける

- ・きめ細やかな指導を行い、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。
→個に応じた指導、少人数指導、学習補習教室、ICT機器の活用
- ・教材研究や授業の準備を十分に行い、意図的計画的に週案を作成する。
- ・非認知的能力の向上を図る。

- (2) 自他の命を尊重するとともに、思いやりと規範意識を育てる
 - ・全ての教育活動で、かけがえのない命について学ばせる。
 - ・児童の多様な課題に対し、個人で対応するのではなく、学年等複数で対応する。
 - ・互いに認め合い、ともに学び合う学校を目指す。
- (3) 新しい教育活動とライフ・ワーク・バランスの推進
 - ・計画的・組織的に教育活動を実践し、教育目標の達成を目指す。
 - ・teamsを活用し、情報共有を図り、効率的に会議等を行うことで、「学校における働き方改革推進プラン」の趣旨に基づいたライフ・ワーク・バランスを推奨する。
- (4) 自分に誇りを持ち、社会の形成に参画する基礎を培う教育の推進
 - ・学校や地域の教育環境を積極的に活用し、「歴史と文化」「環境問題」「国際社会」等への関心と理解を深め、実践する教育を推進する。
 - ・日本の伝統文化に関心を持ち、外国語活動を通して豊かな国際感覚を養う。

7 教育目標実現のための方策

(1) 中・長期的目標と方策

墨田区教育振興基本計画の目標を大切にしながら、体験活動を基盤に置き、児童に「社会的自立の基礎」を身に付けさせていく。

【確かな学力】

- ①児童が「わかる」「楽しい」「できた」を実感できる教育活動の実践
- ②ICT教育の充実
- ③基礎的、基本的な知識・技能の定着を図る。
- ④非認知能力を高めるために、自分自身で決めたり選択したりする場面を意図的に作り、その過程を認め、メタ認知を促すために、振り返りをしっかり行う。
- ⑤校内研究を通して、学力向上への手立てを提案し、実践する。

【落ち着いた学校生活】

- ①学校を安全な教育の場とし、安心して学ぶことのできる教育環境を実現する。
- ②友達の良さを見付け、互いに高め合うことにつながる授業の実践を行う。
- ③気持ちの良い挨拶と良い返事を当たり前のように行う。
- ④集団の一員として、ルールやマナーを守って行動できる児童を育てる。
- ⑤異学年交流（集団登校や兄弟班活動）を通して、思いやりの心を育む。

【授業の改善と充実】

- ①教師の授業力を高め、ICT機器も活用し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ②自力解決学習や体験的学習など、学習活動の充実を図り、児童の学びを深める。

【体力向上と健康増進】

- ①体力や運動能力を向上させるために、運動の習慣化を実践する。
 - ・「一校一取組」「一学級一取組」運動の充実を図る。縄跳びや持久走の取組等。
- ②授業内での運動の質と量の確保を意識して授業計画を立てる。
- ③栄養教諭による食育の授業を通して、食育の理解と推進を行う。

【保護者や地域との協働】

- ①「チーム押上」を意識し、チームで教育活動を実践する
- ②地域教材の開発や地域人材の活用を積極的に推進し、教育活動の充実を図る。
- ③公開授業やHPを活用し、学校の情報発信に努める。
- ④地域と連携した防災教育の充実

(2) 短期的目標と方策

【学力向上・授業力向上】

- ・学習指導要領の円滑な実施と教育課程の計画的実施を行う。
- ・「主体的・対話的で深い学び」を意識し、インプット型からアウトプット型の授業へ。
- ・ミライシードやロイロノート等のアプリを効果的に活用し、基礎・基本の定着や思考力を高め、楽しくわかる授業を行う。
- ・タブレットを活用した家庭学習や日々の振り返り学習を通し、学習内容の定着を図る。
- ・カリキュラムマネジメントを意識した学習活動を実施する。
- ・読書に親しむ児童を増やす。読み聞かせボランティアによる週1回の読み聞かせ、同じく週1回の朝読書の機会を通じて、読書の楽しさを味わわせる。図書館司書と連携し、図書館を使った調べる学習に積極的に取り組む。
- ・外国語指導員を活用し、外国語担当教員を中心に外国語活動の充実を図る。
- ・学校支援指導員やSST、学習指導講師等の活用により個に応じた指導の充実を図る。
- ・授業観察を年3回以上実施し、教員同士がお互いの授業を見合う相互授業観察を行うことで授業改善を図る。
- ・OJT研修や区小研、校外の研修などに積極的に参加し、授業力向上に励む。

【生活指導】

- ・全教職員共通理解のもと、学習や生活習慣の定着を図り、規範意識を育む、
- ・支援を必要とする児童を取り巻く児童に対する心の育成を強化し、いじめや差別のない学級・学年・学校づくりに努める。
- ・児童一人一人が自尊感情を育めるよう、意図的な励ましの時間や、子供同士で互いのよさや成長を認め合う機会を設定する。
- ・目指す学級像を明確に示し、児童とともに学級目標をつくっていく。
- ・道徳・いじめに関する授業を計画的に実施し、児童の人権感覚を養う。
- ・現象面だけを捉えて指導するのではなく、日頃から児童一人一人に寄り添うことで児童の内面や背景まで理解した上で、個に応じた指導を心がける。
- ・一人で対応するのではなく、学年会などで困っていることや相談事を気軽に話せる雰囲気と場を設け、同僚性を育む。
- ・小さな事でも情報共有を徹底する。

【保護者や地域との連携】

- ・普段から連絡を密にするとともに、地域行事やPTA行事に積極的に参加し、コミュニケーションの機会をもつ。
- ・「見える対応、素早い対応、一歩先行く対応」を心がけ、保護者や地域からの要望や意見に誠意をもって対応する。そのための報告・連絡・相談を徹底し、組織で対応していく。
- ・計画的に教室内や廊下等の掲示を工夫し、児童の学習活動の様子が見えるものにする。
- ・地域に関わる学習や地域人材を生かした授業を行い、児童の「生きる力」を育む。

【教育公務員としての自覚】

- ・教育公務員の職務上・身分上の義務を認識し、全体の奉仕者としての自覚を高める。
- ・身だしなみや言動に気を付け、教育公務員であるという自覚をもち、指導者としての気品を備える。また、来校者には誠意をもって接する。
- ・人権尊重の精神を基調に、体罰やいじめのない学校づくりに努める。

「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」を目指して